

本年度の学校評価

本年度の 重点目標	『主体的に考え、自律的に行動する』生徒の育成 ～ 1年「広げる」 2年「深める」 3年「表す」 ～		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 充実した体験入学にする。 円滑なPTA活動。 式典の厳粛な進行。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生にも参加してもらい人数を増やし内容の充実を図る。快適な空間で中学生・保護者に参加してもらう。 意見交換を盛んにし、保護者のニーズにこたえられるようにする。 式典の意味を考えさせ自ら行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加する生徒の考えを生かすよう教員に依頼をする。 放送部によるDVDの工夫をお願いする。 前年度のアンケートを生かしたり、委員会活動の中で常に意見を聞く。 それぞれの式が心のあるものになるよう考え、行動させる。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上と学習習慣の定着を図る。 総合的な探究(学習)の時間を効果的に実施する。 令和4年度新教育課程を編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で学習時間調査を実施し生徒にフィードバックする。 学年と連携し、本校生徒の自主性を高められるような指導を実施していく。 新学習指導要領に沿った教育課程編成に向け、情報を共有・発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回程度各学年で生徒の学習時間を集計し、担任を通じて生徒保護者に情報を提供する。 各学年と連携し、総合的な探究(学習)の時間を利用し、生徒の自主性を伸ばせるような計画・評価を実施していく。 再来年度の実施に向けて、新学習指導要領の情報を教員間で共有し、本校の教育目標に沿った教育課程を編成していく。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の交通マナーを向上させ、交通事故件数を減少させる。 生徒自ら規律を守り、自立することができる生徒を育てる。 いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの命を守るための啓発活動、日頃の立ち番指導を全職員で実施する。 日常指導の場面で、自ら考え行動する意識の向上を図る。 情報モラルの向上を図り、携帯機器との関わり方を啓蒙する。 	<ul style="list-style-type: none"> 立ち番指導を通じて、全職員で登下校時における危険箇所を共通認識として理解して、生徒のマナー向上を指導する。 自ら考える場面を多く用意して、一方的な指導とならないように問いかける機会を増やす。 「できること」と「やってはいけないこと」を考えさせる。同時に家庭にもメリットとデメリットについて理解と協力を呼び掛ける。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって有意義かつ信頼される進路指導を行う。 新課程入試への対応を考える。 進路実現に向け、計画的な学習指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路だより等を用いて情報を積極的に発信する。 教員同士で進路指導の方法を共有し、各学年全体で指導にあたる。 補習や模擬試験のよりよい活用の方や進め方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教員がともに考える時間を多く作る。 本校で初めて勤務する教員にも、進路指導部員が積極的に声をかけ、協力して生徒の進路指導にあたる。 各学年とも、補習において、1年間を見通した学習のスケジュールを考える。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育を通じ、自分を自分で守る意識、行動を身に付けさせる。 落ち着いた学習環境を維持し、より清潔な環境を目指して改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を年に2回に増やし、より発展的な訓練を実施する。 清掃点検を実施し、清掃が不十分な場所に改善を求める。 安全点検を通じて、修繕の必要な場所を速やかに発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> 初回の避難訓練を年度当初4月に行い、生徒に避難経路を覚えさせる。 2回の訓練は実施方法を変える。 トイレ清掃担当者向けに、4月に清掃講習会を実施し、トイレ清掃の仕方を学んでもらう。 清掃道具の場所を周知し、より効率的に清掃できるように状況を整える。 清掃場所の管理者として、清掃監督者が責任を持つよう働きかける。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の方法について研究する。 図書館利用の啓発を努める。 BYODを含め、ICT機器の活用法について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの見直しを行い、より有効な情報発信を行うとともに、ホームページ以外の方法との連携を考える。 図書館だよりなどの利用方法を見直し、生徒に向けて様々なアプローチを考える。 一人一台パソコンに向けての情報収集および検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの全面的見直しを行い、その他の媒体との有機的な連携を考える。 図書館だより、読書会などの図書館行事の目的・方法などを見直すとともに、生徒のニーズについても把握する。 生徒の状況や教員のスキルを正確につかむとともに、本校にとってどのような形で運営が良いのかを検討する。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を活発化する。 学校全体が意欲に溢れる学校行事にする。 部活動の合理的な活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部、各委員会を生徒主体で開催する。 生徒が主体的に考えて取り組む雰囲気を作る。 部活動への側面支援と指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒からの意見を募る仕組みをさらに構築し、生徒のやる気を出させる。 どのようにすれば盛り上がるかを、生徒自身に筋道立てて考えさせるようにする。 他分掌とも連携し、合理的な活動が行えるような仕組みを整える。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止と早期発見に係る取組を充実させる。 いじめ対策の具体的事例について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートや、教育相談委員会を通じ、状況の正確な把握を図る。 研修を通じ、いじめに対する職員の共通認識を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に対するアンケート調査を含め、生徒が相談しやすい雰囲気作りに留意する。 教育相談委員会を柔軟に開催し有効な手立てを実行できる体制作りを行う。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	<ul style="list-style-type: none"> 行事、業務内容の見直しにより業務内容の適正化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動指導など、教員の意識改革を進める。 在校時間等の状況記録を活用し、教職員の時間外労働を把握し、適宜業務内容の見直しを行い、健康障害防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事内容を見直しし、ゆとりある日程を構築すると共に、休暇を取りやすい体制作りに努める。 時間外労働が多い者と面談を行う。
学校関係評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導、進路指導の状況について。 学校行事、部活動の状況について。 	

前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	『常に高い志（目標）を持ち、実践していくと共に一つ上を目指す』 ～グローバル人材・リーダーの育成に努める～		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携を図り、円滑に教育活動が行えるよう推進する。また、刊行物等、情報発信の工夫に力を入れたい。 ・式典の厳粛な進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会・委員会やメールなどで意見を求め、保護者のニーズを知り、こたえるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会での意見を取り入れ、来年度につなげることができた。積極的に協力的な保護者が多く、来年度が楽しみである。 ・教員・生徒の協力を得て行うことができた。さらに良いものにしたい。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理、指導要録の作成に校務支援システムを活用し、正確で円滑な成績処理システムの構築。 ・生徒の学力向上と学習習慣の定着を図る。 ・新教育課程の編成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より安全で正確な成績処理システムを検討する。 ・各学年で学習時間調査を実施し生徒にフィードバックする。 ・新学習指導要領に沿った教育課程を編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の運用で校務支援システムのメリット・デメリットが職員に周知できつつある。 ・5月と11月に2回学習時間調査を実施し、学年・クラスに情報を還元した。今後も継続していきたい。 ・令和4年度に向けた新教育課程について学校全体で情報共有できた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の交通マナーを向上させ、交通事故件数を減少させる。 ・生徒自ら規律を守り、自立することができる生徒を育てる。 ・いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの命を守るための啓発活動、日頃の立ち番指導を全職員で実施する。 ・日常指導の場面で、自ら考え行動する意識の向上を図る。 ・情報モラルの向上を図り、携帯機器との関わり方を啓蒙する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命にかかわるような重大事故に巻き込まれることはなかった。引き続き交通安全の意識向上を促したい。 ・高校生として自覚ある行動が見られたが、自ら考えて行われたとは言い難い。 ・常に指導方法を研究・実践し、家庭とも連携して協力体制をとれるようにすることが課題である。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒にとってより有意義な進路選択を実現させる。 ・新課程入試への対応を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりを発行し、情報を積極的に発信する。 ・大学案内等の配置を工夫し、生徒が情報を得やすいようにする。 ・補習や模擬試験のあり方や進め方を工夫する。 ・新課程入試に該当する学年と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が情報を得るために、大学案内を手取る光景が多く見られた。 ・補習等の講座の組み方をレベル別にしたたり、時間配分やコマ数を工夫するなどして、生徒の実態に近づけて指導することができた。 ・新課程入試の受験問題について、一部では分析や考察を始めたが、次年度はさらに細かく分析し対策を練る必要がある。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育環境の維持・改善を図る。 ・スクールカウンセラー（SC）と協力をして、教育相談活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動を充実させ、清掃点検を実施する。 ・生徒情報を集め、SC面談が必要な生徒を速やかに面談につなげ、対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃点検で不備のあった場所は、速やかに改善され、良い環境が保たれている。 ・担任や学年主任が心配な生徒をこまめに報告し、SCとの速やかな面談につなげられている。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の方法について研究する。 ・図書館利用の啓発を努める。 ・ICT機器の活用法について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内やホームページの内容について見直す。 ・紙媒体だけではなく、さまざまなアプローチの方法を研究する。 ・ICT機器の利用法を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内においては、配布する対象を明確にして内容の変更を行った。 ・紙媒体以外のアプローチについて検討を行ってきたが、実現できなかった。今後も継続し、より生徒のニーズあったアプローチを行っていきたい。 ・ICT機器も利用について、より環境を整え、さらなる有効活用の体制を構築することが課題である。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を活発化する。 ・学校全体が意欲に溢れる学校行事にする。 ・部活動の合理的な活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部、各委員会を生徒主体で開催する。 ・生徒が行事に主体的に取り組める雰囲気を作る。 ・部活動への側面支援と指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からの意見を募る仕組みが整い始め、会長のリーダーシップもよく発揮された。 ・どの行事においても、生徒が主体となって準備や運営が行われた。 ・私学等と比べて練習時間が限られる中、工夫を凝らして密度の濃い活動を実践することができた。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止と早期発見に係る取組を充実させる。 ・いじめ対策の具体的事例について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや、教育相談委員会を通じ、状況の正確な把握を図る。 ・研修を通じ、いじめに対する職員の共通認識を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや生徒からの情報に対し、迅速に対応することができた。 ・学年主任者会等で定期的に学年を超えた情報交換を行うことができた。 ・具体的事例をもとにした研修を行うことができなかった。今後の研究方法について考える必要がある。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	<ul style="list-style-type: none"> ・開錠及び施錠時間を設定する。 ・行事、業務内容の見直しにより業務内容の適正化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導など、教員の意識改革を進める。 ・仕事の効率化を図るための意見集約を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開錠・施錠時間を設定し、職員の在校時間は、昨年度と比較して大幅に減少した。 ・行事・業務内容を見直したが、特定の教員に業務が集中してしまう場面もあり、業務の分散体制の構築が課題である。
総合評価	各分掌とも、目標に向かって意欲的に取り組むことができた。進学実績を含め、部活動実績など、例年と同等かそれ以上の成果を収めることができた。		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、進学指導充実への取組 ・学校行事、部活動の充実への取組 ・交通安全を含めた生徒の安全意識の高揚への取組 ・「働き方改革」に沿った業務の精選への取組
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室のスクリーン配置が進み、ICT機器を利用した授業が増加している。 ・学校行事・部活動とも生徒は意欲的に参加し、充実した活動を行えた。 ・軽微ではあるが交通事故は数件あり、交通安全指導は今後も大きな課題である。 ・施錠時間をできる限り守り、業務の効率化に向けて努力できた。
今後の改善策方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の分散化を図り、より効率的な業務への取組を目指す。 ・女子生徒のスラックス制服の検討を開始。 ・個人のスマホ・タブレットを授業内外での使用を検討。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの改修・照明器具の取替など設備の改修を急いで欲しい。 ・先生方のメンタル面にも留意した働き方を構築して欲しい。 ・教室の掲示等工夫をこらしている。これからも継続して欲しい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成…学校評議員4名、保護者代表1名 ・評価時期…2月上旬

経営管理上の問題点

ア 自転車通学者が90%以上であり、登下校時の交通事故が心配される。警察と連携を取り、特に自転車の交通マナーの向上を図ることが必要である。

イ 職員の年齢構成において、50歳代と若年層が多く、現職研修や校務分掌においての将来のミドルリーダーの育成を図ることが課題である。